

小学校図画工作科学習指導案

1. 題材名 ジャコメろう!! ～出あって、感じて、広げよう～
2. 題材作品 アルベルト・ジャコメッティ 《ヤナイハラ I》 1960-61 年
ブロンズ H43.2cm × W29.2cm × D12.7cm 国立国際美術館蔵
3. 実施学年 第3学年及び第4学年
4. 学習指導要領との関連 「B鑑賞」(1)ア、[共通事項](1)ア、イ

5. 題材の概要

児童の見方や感じ方を広げるために、美術館では《ヤナイハラ I》(ブロンズ彫刻・アルベルト・ジャコメッティ作)とコレクション展に展示されている美術作品から好きなものを選んで鑑賞し、感じたり考えたりしたことを話し合い、絵あるいは立体に限らない様々な方法で表現された作品と《ヤナイハラ I》を比べ、そのつながり、共通点や相違点を見つけ出し、自分の見方や感じ方を広げることをねらいとする。

そのために事前学習では、《ヤナイハラ I》のシルエットの画像を見て、感じたことや考えたことを交流し、本作品を見ることへの興味や関心を高めるようにする。また、事後学習では、美術館で話しきれなかったことや時間が立つことで深まったり、変化したりした自分の気持ちや意識、考えなどについて話し合う活動を行うようにする。

6. 題材の目標と評価規準

(1) 目標

進んで《ヤナイハラ I》及び関連する作品を鑑賞する活動に取り組み、それぞれの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、友人と話し合ったり他の作品と比べて見たりしながら感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かっている。	形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じを基に自分のイメージをもちながら、《ヤナイハラ I》及び関連する作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、友人と話し合ったり他の作品と比べて見たりしながら感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わい進んで《ヤナイハラ I》及び関連する作品を鑑賞する活動に取り組もうとしている。

7. 指導計画(全三次)

次(時間)	内容
一次(45分) 於: 学校	《ヤナイハラ I》の写真を見ながら感じたことや考えたことを交流する。
二次(90分) 於: 美術館	《ヤナイハラ I》を始めとする人物を主題にした作品のよさや面白さを感じたり考えたりしたことを話したり話し合ったりする。
三次(45分) 於: 学校	美術館での活動を通して《ヤナイハラ I》や別の作品を鑑賞して、感じたり考えたりしたことによって起こった変化をふり返る。

8. 授業展開(全三次)

◎第一次

(1) 本時の目標

進んで《ヤナイハラ I》を写真で鑑賞する活動に取り組み、感じたり考えたりしたことを交流する活動を通して作品《ヤナイハラ I》への関心をもつ。

(2) 展開

学習活動	指導内容および留意点
<p>1. 鑑賞について知り、イメージを広げる。</p>	<p>◇ 鑑賞とは何かについて伝え、本時のめあてを提示する。</p>
<p>めあて：思ったこと・感じたこと・考えたことを言葉にしよう。</p>	
<p>2. 《ヤナイハラ I》のシルエットに切り取った形を見て基の形が何か考える。 「花びんに見えるよ」 「優勝カップじゃないかな」 「肉を持つ手に見えるなあ」</p> <p>3. 配られた《ヤナイハラ I》を鑑賞する。 ・ 感じたことや考えたことをグループで伝え合う。 「黒っぽい色。チョコレートみたい」 「表面がでこぼこしている。何でできているのかな」 「顔が細かい」「男の人、外国の人かな」 「横からみたらうすいな」 「しわとか細かくあらわされているな」 「よく見るといろいろな色が見えてくる。黒い部分と茶色い部分がある」 「顔と比べると体はぼこぼこしていて完成していないみたい」 「うちのおじいちゃんに似ている」 「粘土みたいだけど使ったことがない粘土」 「木を彫ってつくっているのかな」 「市役所の前にある銅像と色が似ている。同じ材料でつくっているかもしれない。」 等</p>	<p>◇ 《ヤナイハラ I》のシルエットを見せる。 ・ プロジェクターや拡大印刷物を黒板に掲示して見せる。 ・ グループに一枚ずつシルエットの資料プリントを配り、回して見てもよいことを伝える。 「形からイメージできるものをたくさん出し合ってみよう。」 「何のシルエットか推理してみよう。」 ・ 児童から出た意見を拾い、全体で共有する。</p> <p>◇ スライドで《ヤナイハラ I》の作品の画像を見せ「この作品のシルエット」だと伝える。同時に作品の画像の資料プリントをグループに配り、写真を立てて天地を同じにしシルエットと比べて見るよう伝える。</p> <p>【評価】: 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの生活経験と結び付けることから始めるよう、声をかけたり、そのような発言に共感的に応えたりする。 ・ 互いに共感できるところ、感じ方の違いに着目して話を聞き合えるように促す。 ・ 必要に応じて対話に関わり、頷きを交えて共感的に聞くなどし、見方や感じ方の違いを認め合う雰囲気をつくる。 <p>【評価】: 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童自身が造形的な視点で捉えることができるように、児童の発言を、造形的な視点(形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ)やそれらを基にもつイメージにより捉え直して児童に返す。視点が出ないとは、「例えば形で見たら」「色で見たらどうか」など造形的な視点を例に聞く。 ・ 出た発言を形、色、それらの組合せなどの視点に分けながら板書し、最後に発言をまとめるように視点を書き示す。

<p>4. 友人と話したり、話して気付いたりしたことをワークシートに書く。</p> <p>「でこぼこしているように見える」 「なにでできているのかな」 「茶色で、てかてかしている」 「男の人で、やせている人」</p>	<p>◇ 話していて強く感じたことや、いいなあと思ったことを選んで、書くように声かけをする。</p>
<p>5. ワークシートに書いたことを、全体で交流する。</p> <p>「人によって、グループによって見るところが違う。」 「いろんな感じ方があって面白いなあ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術館でのマナーを考える。 	<p>◇ いろいろな意見が出たことと、〇月〇日には美術館で《ヤナイハラ I》を鑑賞することを伝え、美術館でのマナーについて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示物にはさわらない。 ・ ふざけない、走らない。 ・ 話す声の大きさに気をつける。

(3) 準備物

教師：《ヤナイハラ I》の黒いシルエットのプリントを、黒板に掲示できる大きさのものと、児童に配る資料プリントをグループ数（A3またはA4の正方形）。

《ヤナイハラ I》の画像を、掲示用データ（あるいは黒板の大きさの掲示物）と、児童に配る資料プリント配布用シートをグループ数（A3またはA4の正方形）。

児童：活動班は4人前後で一組。

◎第二次

(1) 本時の目標

《ヤナイハラ I》を始めとする展示作品を鑑賞し、友人と話し合う活動を通して、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて感じたり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

(2) 展開

学習活動	指導内容および留意点
<p>1. オリエンテーション：国立国際美術館についての説明を聴き、美術館での鑑賞マナーや本時の活動について知る。</p> <p>「走り回ったりせずに静かに移動する。」 「静かにたくさんお話をする。」 「何があるか楽しみだなあ。」</p>	<p>◇ 集合し、国立国際美術館のなりたちや、鑑賞の際のマナー及び本時のめあてなどを、「しおり」を活用して伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習を簡潔に振り返り、本時のめあてを伝える。
<p>めあて「くらべて、見つけよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 《ヤナイハラ I》と一緒に展示されている作品と見て比べながら、作品の形や色の感じ、作品全体の感じ、そのよさや面白さを感じたり考えたりしよう。 ・ 同じことやちがうことを探したり、話し合ったりしよう。 	
<p>「本物はどんなのかな」 「他の作品がいろいろあるんだな」 「違いを見つけるって難しいかな」</p> <p style="text-align: center;">- 約20分 -</p>	<p>◇ 本時の学習の「めあて」とともに、以下の活動を行うよう確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の形や色、それらの組合せの感じ、作品全体の感じ、そのよさや面白さについて、友だちと話したこと、考えたこと、わかったこと、心に残ったことなどを書く。

2. 《ヤナイハラ I》を鑑賞し、学校で《ヤナイハラ I》を画像で見た時との共通点や相違点などについて感じたことや考えたことを交流する。

「けっこう小さかった」「薄くて細かった」

「顔は小さかった」

「体の後ろも、でこぼこしていた」

「どこから見てもでこぼこだった」

「結構明るい色だ。明かりのせいかな」

「近づいて見ると優しい顔をしている」

「写真で見たとき鉄か石できているかわからなかったけど、石できているように見えた」

「顔と体の色は、ちょっとちがう」

「色は、黒とこげ茶色で岩みたい」

「ヤナイハラ I、アルベルト・ジャコメッティとある」

「目がしっかりあいていた。本当に今すぐ動きそう」

「やはり、服を着ていないように見える」

- 約20分 -

3. コレクション展の他の作品を鑑賞する。

- ・ 一人で鑑賞し、気になる作品に出会ったら、立ち止まり、近くの友だちと、どこが気に入ったのかを話す。

- ・ 作品の形、色、イメージに着目し、友だちと交流することを通して感じ方の違いを知る。

「大きい人やとっても小さい人があったよ」

「いろいろな形の人があったよ」

「服もあった。どんな人が着るのかな」

「これ、ジブリにでてくる女の人に似ているね」

「ほんとうに、髪型とかそっくり」

「こっちははまっすぐ見ているようにも見える。どこ見ているか分からないところが気になる」

「この絵の色がかっこいいなあ」

「これ、表面がつるんとしているね」

「色々な色を使って人をかいているのがすごい」

- 約20分 -

◇ 児童を《ヤナイハラ I》の前に集まるよう促し、鑑賞と話し合いの時間をもつ。

- ・ 児童一人一人の考えができるまで、十分に見て、感じたり考えたりする時間を保障する。

【評価】:知識

- ・ 出た意見を形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じなどの造形的な視点で捉え、十分に聴き、児童が気付いたことに意味や価値を感じることができる言葉を添えて返す。

※ 造形的な視点:形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせの感じ、などが考えられる。

- ・ 曖昧な言葉や、手振りなど、言葉にできない感覚も丁寧に拾い、対話しながら具体化できるよう教師が言葉をつないだり、他の児童に言語化するよう促したりする。
- ・ 教師は児童の感じたことや考えたことをできるだけメモしておく。

◇ 散会する前に以下のことを伝える。

- ・ 「不思議だ」「面白そう」「わからない」などの理由で面白いと感じた作品を選んで鑑賞すること、気になる作品や気に入った作品の前では立ち止まり、同じように立ち止まっている児童と、作品について話をするを伝える。
- ・ 他の作品の内容によっては、「人間がどうあらわされているか」という視点を伝える。

※ 児童の実態やその場の状況に応じて、前時に伝えた鑑賞のマナー、集合場所と時間などを守るよう伝え、確認する。

◇ 話している児童に共感的に関わりをもち、話し合いが造形的な視点(形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ)やそれらを基にもつイメージで捉えながら対話が広がるようにコメントを返す。

- ・ なるほど。そういうことか。いいところに気がついたね。
- ・ それって、形のことだね。

<p>4. 《ヤナイハラ I》の前で再度鑑賞し、全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術館にある他の作品を鑑賞して、感じたことや発見したこと、友だちと話して気付いたこと等について話す。 「とてもカラフルな絵があったよ」 「変わった形のものもあったよ」 「友だちと同じところが好きだったよ」 「友だちの気に入ったところを聞いて、自分も好きになったよ」 《ヤナイハラ I》と他の作品を比べて違うところと同じところ。 「他の作品は、こんな色はなかった」 「やはり1番、細かいところまでできている」 「一生懸命つくった感じがするよ」 「どんな所で作ったのか写真を見てわかった」 「作った人とモデルになった人がどんな人かわかった」 「他のとくらべて表情があまりない」 - 約15分 - <p>5. 他の作品をみる前と比べて変わったところ、変わらなかったところを伝え合う。 「何だか面白い形に見えてきたよ」 「顔はしっかりとつくっているように見えるのに、胴体はデコボコのまま。つくった人に理由を聞いてみたい」 「完成まで時間がなかったのかもしれない。モデルの人がしんどくなったとか」 「美術館で見るといろいろな色を見つけることが出来た。実物だからわかったのかな。実物を見るって面白い」 「へこんでいるのはつくった人の指のあとかも」 「また、いろいろな作品をゆっくり見てみたいなあ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の美術館での鑑賞、友だちと話したこと、聞いたことを通して、心に残ったことやわかったことをメモする。 - 約15分 - 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 時間になったら、児童を《ヤナイハラ I》近くに集合するよう静かに促す。 ◇ コレクション展の展示作品について鑑賞したり、《ヤナイハラ I》と比べたりして感じたことや考えたことを交流する時間を持つ。 <p>【評価】: 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が自分の見方や感じ方が広がるよう、必要に応じて児童の対話に参加し、必要に応じて以下の問いを行い対話が盛んになるよう促す。 「他の作品で気になったものはありましたか」 「友だちと話して、発見したことはありましたか」 「《ヤナイハラ I》と比べて同じことを感じるものはありましたか」 「違うけれど、よさや面白さを感じたものはありましたか」 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 他の作品を見てもう一度《ヤナイハラ I》を見ると自分に何か変わったことがありますか。など、本時の学習のねらいに照らした質問をする。 発言された内容を、同じように感じたり考えたり、気付いたりした児童には挙手を促し、全員が参加できる話し合いにする。 ◇ 本時のまとめと、次時の予告をする。 <ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったことがあれば、答える。 自分たちではどうしてもわからないことについては、美術館の方に答えていただく。 美術館で観て、わかったことが、たくさんあるね。次は、学校でそのことについて、話しましょう。など、まとめ、次時への期待を持たせる。 「しおり」のメモの欄に書くように伝える。 「しおり」を回収する。
---	---

(3) 準備物

教師：美術館でのマナー及び本時のめあて、進行を明記した「しおり」。

児童：メモを取るための筆記用具（クリップボードと鉛筆など）

※ 児童の実態に合わせて「しおり」を用意する。

※ 鑑賞中、対話を大切にしている時は書くものを持たせず、鑑賞後に講堂などで書かせることもできる。

◎第三次

(1) 本時の目標

美術館での鑑賞で作品のよさや面白さなどについて感じたり考えたりしたことを振り返り、自分なりの見方や感じ方を広げる。

(2) 展開

学習活動	指導内容および留意点
	◇ 今日の学習の「めあて」を伝え、確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> めあて：美術館での鑑賞を思い出し、気づいたことや感じたことを話そう。 </div>	
<p>1. 美術館での鑑賞で、思い出すことを伝え合う。 「たくさん作品があった」 「絵の作品が好きだった」 「《ヤナイハラ I》があんなに小さいと思わなかった」 「本物の《ヤナイハラ I》に会えて嬉しかった」 「みんなで話すのが楽しかった」</p> <p>2. 美術館へ行ったからこそ、わかったこと、思ったことや、これからは生かしたいことをグループで話し合う。 「美術館で本物を見てびっくりしたよ」 「横から見たらうすかった」 「美術館って、たくさん作品があるね」 「また、家族も一緒に美術館にいってみたいな」</p> <p>3. 話題になったことを発表し、共有する。 「小さいと思った人と大きいと思った人がいました」 「作品を見ながら友だちと話したことが楽しかった」 「美術館へまた行きたいという人が多かったです」</p> <p>4. 心に残ったことをワークシートに書く。 「実物を見て、思ったより小さくてびっくりしました。てかてかして、でこぼこして、へこんでいるところは、指のあとだと思いました。」 「1年間かけてせい作したとは知らなかった。一生けん命つくられた作品だということがわかりました。」 「アルベルト・ジャコメッティという人がつくったことや、他にもたくさん作品をつくったことを知りました。」 「美術作品には絵や立体だけではなく、色々な表現方法があることを知りました」 「立体の作品は見る向きによって形が変わって見えた」 「表面をツルツルにつくらない方法もあることがわかった」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術館の活動ではどんなことを感じたり考えたりしたかを伝え合うよう促す。 ・ 1次、2次での学習活動について、思い出させるために、美術館での活動の様子を撮った写真などをプロジェクターで見せる。(美術館での写真撮影について、事前に申し込んでおく) ・ 児童が美術館でメモをした各自の「しおり」を返却する。 【評価】：思考・判断・表現 ・ 美術館で話せなかったことについても話せるように対話の時間を十分にとる。 ・ 児童が感じたことや考えたことを思うように発言できるよう共感的に応じ、可能であれば同じ考えをもっている友人に発言の補助を促したり、話題をつなげたりする。 ・ 発表内容を、形・色・イメージに分類しながら板書する。 <p>【評価】：知識 【評価】：思考・判断・表現</p>

(3) 準備物

教師：美術館での活動の様子を撮った写真。美術館で児童が書いたメモ。

今日の話し合いで心に残ったことを書くワークシート（1次と同じもの）

児童：グループは4人一組。